

## ○ワークショップ 「観光経済学」

開催責任者 経営学部 南川和充



ワークショップは以下のとおり、開催された。

### ◇研究目標

観光産業、ホスピタリティ産業、ツーリズム産業、地域、都市、交通に関する経済学および経営学的観点からの研究をテーマとする。前年度からの継続として①観光事業者意思決定（施設立地など）、②観光消費者行動（交通・宿泊など）、③観光振興（道の駅、リニア新幹線、世界遺産など）、④観光 DX に加え、今年度はダークツーリズムの経済分析に関する課題に取り組むことを研究目標とする。

### ◇報告者および題目

#### 第 1 回

2025 年 8 月 30 日（土） 南山大学 Q 棟 1F Q104 教室

第 1 部 座長 田口順等（神戸学院大学経済学部准教授）

佐藤政行（経済経営都市研究所）

「星野リゾート OMO の OMO レンジャーに関する一考察」

第 2 部 座長 深見聡（長崎大学総合生産科学研究科准教授）

特別セッション 戦後 80 年のダークツーリズム—観光資源としての新たな可能性を探る—

井出明（金沢大学国際基幹教育院教授）

解題「2025 年 ダークツーリズムの現在 —加害の記憶の重要性—」

和栗隆史（一般社団法人全国寺社観光協会 国際寺社観光研究所）

「葬送ツーリズム試論 ——記憶・空間・死をめぐる観光的再編」

上村明（和歌山大学大学院観光学研究科博士後期課程・国際観光学研究センター

客員ジュニアフェロー）・難波航平（和歌山大学大学院経済学研究科博士後期課程）

「オルタナティブツアーの視線から考える琉球ダークツーリズム」

水野英雄（椙山女学園大学現代マネジメント学部准教授）

「ダークツーリズムと他のツーリズムの相乗効果による誘客促進と経済波及効果の拡大」

椙山女学園大学 学生チャレンジプロジェクトメンバー4 年生

「愛知県内の戦争遺構を活用した教育旅行の誘客促進」

ディスカッション

## 第2回

2026 年 1 月 10 日（土） 南山大学 J 棟 4F J415 会議室

座 長：南川和充（南山大学 経営学部教授）

報告者：LIU YANG（南山大学大学院経営学専攻 博士後期課程）

論 題：Exploring Food Waste Behavior at Food Festivals: An Integrated Approach  
Using the Norm Activation Model and Social Cognitive Theory

討論者：石垣智徳（南山大学 経営学部教授）

報告者：田耕図（南山大学大学院経営学専攻 博士後期課程）

論 題：Impact of Suppliers' Green Logistics Innovation on Green Mindful  
Consumption : A Value Co-creation Perspective

討論者：奥田隆明（南山大学 経営学部教授）

## 第3回

2026 年 3 月 4 日（水） 南山大学 J 棟 5F J52 教室

座 長：南川和充（南山大学 経営学部教授）

報告者：渡部なつ希（南山大学大学院経営学専攻 博士後期課程）

論 題：酒類市場における表示属性のヘドニック価格分析  
ー日本のワイン市場を中心とした実証研究ー

討論者：奥田隆明（南山大学 経営学部教授）

報告者：LIU YANG（南山大学大学院経営学専攻 博士後期課程）

論 題：The Dark Side of Online Food Delivery:  
Evidence of Impulsive Consumption Behavior

討論者：石垣智徳（南山大学 経営学部教授）

#### 第 4 回

2026 年 3 月 14 日（土） 南山大学 Q 棟 1F Q104 教室

座長 水野英雄（梶山女学園大学）

佐藤政行（経済経営都市研究所）

「星のや軽井沢による日本の宿泊施設の事業革新」（オンライン報告）

和栗隆史（一般社団法人全国寺社観光協会）

「無住職寺院（空き寺）の宿泊拠点化にみる観光事業の成立形態 —那智勝浦町における小口出資型 DAO 活用を事例として—」（オンライン報告）

ペルラキ ディーネシュ（山口大学）・K. Ali Akkemik（福岡大学）

“The Effect of Discover Japan Campaign on Tourism Demand in Japan”

江口善章（兵庫県立大学環境人間学部）

「産業連関分析による市町村の観光客受容限度の試算と特に小規模自治体の課題—和歌山を例として—」

上村明（和歌山大学大学院観光学研究科）・難波航平（和歌山大学大学院経済学研究科）

「離島部におけるワーケーションの実践と移動・物流の制約 —鹿児島県十島村での滞在調査に基づく一考察—」

吉田えり（和歌山大学大学院観光学研究科博士後期課程）

「観光地に在住する人々が活き活きと「おもてなし」できるための支援に係る文献検討」

観光経済経営研究会・日本観光学会中部支部 会員総会

#### ◇ワークショップの討論内容

##### 第 1 回

・今年度の研究課題の一つである「ダークツーリズム」に即した特別セッションであった。日本観光学会中部支部・観光経済経営研究会に加えて、その他さまざまな研究分野（進化経済学会観光学研究部会）からの参加者も募っての共同開催とすることができた。

・学部生・大学院生を含め多彩な報告者を集めることができた。その意味で、経済学的・経営学的アプローチの観光研究分野の研究者交流およびこの分野の若手研究者育成という観点からも有意義な場を提供できたと思われる。

##### 第 2 回

研究目標に沿って得られた成果について、上記のうち、LIU YANG の研究報告概要を示す。

本研究は、食品ロス行動について消費者心理学の観点からその発生メカニズムを実証的に明らかにすること、そしてそこで得られる知見から消費者による食品ロスを効果的に削減するための実行可能な管理策についての含意を導き出すことを目的としている。具体的には、フードフェスティバルを想定した状況における消費者の食品ロス行動を引き出す内

的(個人レベル)要因および外的(社会的環境)要因の二つの側面に焦点を当て、食品ロス削減意向の規定要因について複合的に検討している。理論枠組みとして規範活性化モデル(NAM)および社会認知理論(SCT)を用いて、消費者が食品ロスによる結果と責任の帰属、自己効力感、社会的関心および社会的規範を知覚した後に、個人に内在する道德規範を活性化し、それが行動変容を促すというモデルを検証している。質問票調査によるデータはフードフェスティバルで収集され、参加者の大部分は中国人観光客である。構造方程式モデリングによる分析の結果、上記の媒介モデルにおいてフードフェスティバル体験という調整変数が統計的に有意となったことから、他の来場者や仲間の行動をうまく統制することによって食品ロス削減を推進しうることを示唆している。

### 第3回

研究目標に沿って得られた成果について、上記のうち、渡部なつ希の研究報告概要を示す。

渡部報告では、スーパーマーケットのPOSデータを用いて、2017年と2023年の東京都と愛知県内で購入されたワインの価格に対する評価を調査し、どのような属性の商品が評価されているかに着目した。従属変数は1mlあたりのワインの価格をとして、独立変数には商品（赤、白）、生産国、葡萄品種、製法別（有機農法や酸化防止剤無添加など）の合計32の属性を採用してヘドニック分析を行った。

分析の結果、2017年はニュージーランドが価格に対しての評価が最も高く、2番目にオーストリア、3番目はフランスでいずれも統計的に優位であった。2023年はオーストリアが価格に対しての評価が最も高く、2番目に赤ワイン、3番目はジンファンデルでいずれも統計的に有意であった。本調査から、今後国内のワイン販売における適正な価格設定を推測できる可能性を見出すことができた。課題としては、新型コロナウイルス感染症による影響の他に、円安や世界情勢不安による物価高騰の影響も含まれていることを考慮すべきことや、地区別での追加調査が必要であることが指摘された。

### 第4回

研究目標に沿って得られた成果について、上記のうち、江口善章の研究報告概要を示す。

本研究では、観光客の過剰な流入による地域社会の生活の質の低下や自然環境への悪化を招く「オーバーツーリズム」の問題を観光受容限度の観点から検討している。先行研究を踏まえて、地域の労働力制約の下で受け入れ可能な観光入込客を産業連関分析を使って算定する方法を提示している。この方法を和歌山県の市町村を例にして当てはめたところ、とくに小規模な自治体で実際の入込客が観光客受容限度を既に上回っていることが観察された。

◇研究成果発表

Takaya Hirayama, Yasuo Ohe, “Wage Determinant Factors for Farm-Support Paid Volunteers: Emerging Co-Creating Rural Tourism Addressing Labour Shortage in Rural Japan”, *Agriculture*, vol. 16, no. 4. (MDPI) , February 2026。

森田海咲樹、崔明姫、渋谷博幸、「豊橋市北部地域における仮想的観光施設の訪問意向に関する研究—構造方程式モデリングを用いて—」、『地域学研究』（日本地域学会）、55 巻 1 号、pp. 35-47、2025 年 11 月。

張銘、奥田 隆明、「観光流動に伴う観光マネーフローの推計—インバウンド観光を対象にして—」、『地域学研究』（日本地域学会）、55 巻 1 号、pp. 105-115、2025 年 11 月。

橋本仰未・大江靖雄、「コロナ禍の道の駅入込客数への影響と回復要因—岐阜県を対象として—」、『日本観光学会誌』（日本観光学会）、65 巻、pp. 84-93、2024 年 12 月。

K. Ali Akkemik, Jorge Tavares Borges, Denes Perlaky, “Economic impact of tourism in Cabo Verde: a CGE analysis”, *International Journal of Economic Policy Studies*, (Springer Nature) , Volume 18, pp.173-195, (2024), 2023 年 12 月。

※出席者の所属先・職名は、ワークショップ開催当時のものです。